

事業所名	児童デイサービスつむぎの里				支援プログラム		作成日	令和6	5月	31日
法人（事業所）理念	障がいがあっても、必要なサービスやシステムがあれば、住みたい場所でその人らしい生活が実現できます。ノーマライゼーションの社会の実現がつむぎの里の根っこにある願いです。「地域であたらしい」をスローガンにできる限り施設の機能を提供し、地域の社会資源や関係機関のネットワークの中で開かれた福祉サービスとシステムづくりを目指します。～お子様のかけがえのない現在をいきいきと～									
支援方針	自分のことが自分でできる力を伸ばすようご家族の子育てを支援します。お友だちと楽しく学ぶ力をひろげるようお子様の育ちを支援します。									
営業時間	8 時	30 分	から	17 時	0 分	まで	送迎実施の有無	<div>あり</div>	なし	児童発達支援は基本ご家族による送迎。必要時送迎あり。放課後等デイサービスは送迎あり。
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	健康状態を常にチェックし、必要に対応を行う。保護者による情報を共有し小さな異変にも気づくことができるよう細やかに観察し、本人が出すサインを見逃さず、心身共に安心、安全な生活が送れるよう支援する。睡眠・食事・排泄等の基本的な生活リズムを身に付けられるよう支援する。食に対しては、楽しく食事ができるよう雰囲気作りや相信、嚥下、姿勢保持等発達段階に応じて自動具（スプーン、皿など）を用いて支援する。食事、衣服の着脱、排泄等生活に必要な基本動作の獲得できるように支援する。								
	運動・感覚	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や身体の動かし方（上肢、下肢、筋力など維持、改善）を支援する。姿勢保持の為、椅子、机を個々に合うよう調整する。視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用できるように遊びを通して支援する。感覚の特性（過敏、鈍麻）を踏まえ様々な教材を用いて、環境に配慮し、感覚の偏りに対して調整を行う。								
	認知・行動	視覚、触覚、聴覚などの感覚の必要な情報を収集して認知機能の発達を促すよう支援する。概念（形、色、量、音、空間、時）の形成を図る。認知の特性を踏まえ、個々の特性に配慮し、こだわりや偏食等に対応する。認知や感覚の偏りによる不適切な行動を軽減したり予防し、適切な行動へと支援する。								
	言語コミュニケーション	日常の言葉かけを体験と結び付け理解できるように促し、自発的な発声を促す。言葉によるコミュニケーションだけではなく、指差し、身振り、サインを用いコミュニケーションの基礎を作る。相手と同じ対象に注意を向け、互いに意識できる共同注意の獲得を含めコミュニケーションの能力の向上のための支援をする。音声や文字、絵カード等を使い、意思の伝達ができ、状況に応じた相手とのコミュニケーションの展開ができるように支援する。								
	人間関係社会性	身近な大人（担任）との信頼関係を築きそれを基盤とし、安心して他者（児童）と安定した人間関係が作れるよう支援する。大人が介在し、感覚遊び、運動遊び、ごっこ遊び等遊びを通して社会性の発達を支援する。一人遊びから並行遊び、役割やルールのある協同遊びへと社会性の発達を支援する。気持ちの折り合いのつけ方、コントロールの仕方を大人が介在しながら、学べるよう支援する。								
家族支援	保護者の悩み相談がある時は担任を含め、随時専門職（心理士、作業療法士、言語聴覚士）による相談援助を実施する。保護者のレスパイトや仕事による預かりニーズに対応するための支援を行う。					移行支援		幼稚園、保育園、小学校など移行先への連絡調整、進路の選択について相談援助や準備の支援を行う。支援内容について移行先との情報共有する。（引き継ぎ書）（サポートノート）		
地域支援・地域連携	保育園・幼稚園・学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整の相談援助。市役所や相談支援事業所等の関係機関と円滑に連携を行う。					職員の質の向上		専門職による助言、指導を受け、研修、勉強会を行っている。		
主な行事等	季節の行事、芋掘り、誕生会、クリスマス会									